

## 主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

公民的分野専門委員長 岐阜市立長森中学校 前島久恵

### 1 はじめに

今年度の授業実践では、3名の先生方が価値を形成する授業の「授業モデル」の提案に基づき、授業実践に取り組んでくださった。授業研究会では、研究委員の先生方の様々な意見を交流し合うことができ、大変有意義な時間をもつことができた。授業実践してくださった先生方や、たくさんの意見やアイデアを出してくださった先生方に感謝の思いを込めて、今年度の研究と次年度の方向性についてまとめていく。

### 2 研究内容

【価値に関する認識を形成する授業】における重点

- ★授業モデルの定着・発展・普及
  - ・価値に関する認識の授業を教科書から考える
  - ・評価の充実  
(ねらいの明確化とルーブリック評価等の活用)
- ★認識を深める場の手立ての在り方
  - ・「留保条件の設定」による議論の成立(価値に関する話し合い)
  - ・合理的な意志決定をさせるための「事実の分析的検討」

### 3 授業実践

#### 授業実践1 (11/14)

授業者：山県市立高富中学校 曾我 幸正 教諭  
単元名：「国の政治の仕組み」～模擬裁判～

##### 【概要】

「評決を出す上で、あなたが大切だと思うことは何か」という課題で、争点に沿って班ごとに評決を出した。その際、評決を出す上で決め手となった争点は何かを明確にしなが、他の班の評決を比較し、さらに弁護士の先生の話も聞きながら再評決を出した。評決を出さなければならない点に、合意形成の必然性があり、生徒たちが悩み考え続ける授業となった。

##### 【授業実践1の考察】

- 演繹的な判断ではなく、帰納的な判断を大切にすることで、複数の事象の共通点から結論を出そうとする考え方ができた。
- 争点を明確にしたことで、自分(自分たち)が有罪か無罪かを判断する上で、何を基準に、何を大切に考えたか(価値)が明確になり、生徒同士の議論が活発に行われた。
- ゲストティーチャーが新たな視点(人権という視点)を与えてくれたことで、リアルな世界とのつながりを感じることができ、より現実的に考えることができた。

●この授業での軸は、小集団での評決であり、全体交流の後の再評決であったが、時間の関係でそこに十分な時間とれなかった。ゲストティーチャーとの連携の大切さを痛感した。

#### 授業実践2 (11/29)

授業者：恵那市立山岡中学校 橋本 皐介 教諭  
単元名：「地方自治と私たち」～恵那市の未来～

##### 【概要】

「恵那市の政策は『維持』と『発展』のどちらを優先すべきか」という二項対立の課題で、特に山岡地域や串原地域の現状をもとに、これからの恵那市の政策について考えを深めた。山岡中と串原中をリモートでつなぎ、2校の生徒がそれぞれの自分の地域から恵那市全体を視野に入れ、維持か発展か、自分の立場で意見を述べるという授業に挑戦した。

##### 【授業実践2の考察】

- 中学校の合併を控えた山岡地域、串原地域に生活する生徒が、自分たちの地域や自分たちの恵那市の未来について様々なデータをもとに考えることができた。
- 串原中の生徒とリモートでつながり、一緒に考えられる場を創り上げることができた教師の熱量がすばらしい。
- 二項対立の課題では、その二つの概念が矛盾または対立の関係にあることが大切である。今回の「維持」か「発展」については、維持の先に発展があるという同一線上にあると考えることができ、課題としては難しい部分があった。
- 立場は維持か発展かであったが、その判断をするための視点があいまいだった。視点の明確化はやはり重要である。

#### 授業実践3 (12/12)

授業者：輪之内町立輪之内中学校  
松宮 悠起 教諭  
単元名：「生産と労働」～労働環境の変化と課題～

##### 【概要】

## 【授業実践3の考察】

### 4 研究内容のまとめと来年度の研究の方向性

3人の先生方の実践，そこでいただいた意見を元に，来年度の方向性として…

#### (1) 授業モデルの提案をベースに…

「価値を形成する」には，①個人内の価値形成，②集団(班・学級)での合意形成の2ステップが必要となる。

#### 『個人内の価値形成』

- 1 **議論**の設定…何が問題となっているのか。
- 2 視点の設定…どんな視点があるのか。
- 3 論点の整理・焦点化…誰のため，何のためにどうすればよいのか。**何が特に大切なのか**。(軽重)
- 4 立場の明確化…どの立場で考えるべきなのか。

→これらを理解していく中で，自分がそう考えるに至った判断理由を明確にし，自分の考えの変容にも気づかせるようにする。

#### 5 相互理解を踏まえた意思表示

#### ※**議論**の設定について

・「A or B」という二項対立の課題については，その二つの概念が矛盾または対立の関係にあることを大前提とする。

・二項対立だけでなく，何かをつくり上げていく課題(例えば，「予算案をつくろう」「政策を考えよう」など)を設定することで，合意形成に必然がうまれると考え

られる。

※**何が特に大切なのか**これが個人内での「価値形成」と捉える。この価値の中には感情を含む場合もある。根拠をとまなう感情を入れることで，議論がより深まると考える。

#### 『集団(班・学級)での合意形成』

6 多数決・折り合い…より多くの人が納得するためにはどんな方法があるのか

7 少数意見の尊重・留保条件…どんな条件があれば，少数意見の人たちも納得できるのか

※集団での合意形成は，学級全体だけではなく，小集団での合意形成も視野に入れる。

※折り合いの付け方を学ぶのではなく，折り合いをつけることも合意のための一つの方法であることを学ぶ。

#### (2) 価値認識を深めるための手立て

集団での合意形成を図る段階での，「折り合い」「留保条件」という方法もあるということについて学ぶことで，個人の価値形成から，自分以外の価値に目が行き，より多くの人が納得するための解決策を考えることができる。来年度は合意形成に必然をうみだすためにはどのような授業ができるのか，さらに研究を進めたい。

#### (3) 自己の変容を認識するための評価

自己の変容を認識するために，ルーブリック評価については来年度研究を進めたい。(以下，例)

	A	B	C
問題の解釈 (解決すべき課題がはっきりしているか)			
解決策の実効性 (解決策によって課題が解決できるか)			
解決策の正確性 (結論と根拠が明確であるか)			

### 5 おわりに